

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	1. 職務の理解（6時間）	
到達目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか具体的にイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。	
項目名	時間数	
	通信	通学
(1)多様なサービスの理解		2時間
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解		4時間
合計時間数		6時間

【講義】①介護保険サービス（居宅、施設）、介護保険外サービスについて講義を行い、介護が行われる多様なサービスについて特徴を学ぶ。

【演習】介護保険サービス（居宅・施設）について講義内容をもとに特性やメリットなどをグループワークでまとめるとともに、介護サービスや施設、介護職に対する理解を深める。

【講義】①居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容、実際のサービス提供現場の具体的なイメージができるようにする。

②ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供までの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携を学ぶ。

【演習】介護保険サービス（居宅・施設）について講義内容をもとに特性やメリットなどをグループワークでまとめるとともに、介護サービスや施設、介護職に対する理解を深める。

科目名（時間）	2. 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）		
到達目標	介護職が利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職である事を自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)人権と尊厳を支える介護		3時間	<p>【講義】①人権と尊厳を保持するために介護に関する基本的な視点（ICF、QOL、ノーマライゼーション）を理解する。</p> <p>②利用者の権利を擁護するための制度の種類や内容について理解する（虐待防止、身体拘束禁止、個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業）</p> <p>【演習】講義を受けたあとグループワークを行い、ポイントとなる項目（ICF、QOL、ノーマライゼーション、虐待防止、成年後見等）についてまとめ、理解を深める。</p>
(2)自立に向けた介護		6時間	<p>【講義】①その人らしく生きることを支えるために、自立支援（自立・自律支援、残存機能の活用、動機と欲求、意欲を高める支援、個別性／個別ケア、重度化防止）について学ぶ。</p> <p>②介護予防の考え方について理解できるようにする。</p>
合計時間数		9時間	

科目名（時間）	3. 介護の基本（6時間）		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。 		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携		1.5 時間	<p>【講義】①介護環境の特徴による違いとして、訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性を理解する。</p> <p>②重度化防止・遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支えるための援助、根拠のある介護、チームケアの重要性、事業所内のチーム、他職種から成るチームを理解し、専門職に求められることがなにか学ぶ。</p> <p>③介護に関わる異なる専門性を持つ多職種を理解し、チームとなり利用者を支える意味、互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、チームケアにおける役割分担を学ぶ。</p>
(2)介護職の職業倫理		1.5 時間	<p>【講義】職業倫理（専門性の倫理の意義、介護の倫理、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊厳）を学ぶ。</p>
(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント		1.5 時間	<p>【講義】①介護における安全の保護ができるように、事故に結びつく要因を探り対応していく技術、リスクとハザードを学ぶ。</p> <p>②事故予防、安全対策として、リスクマネジメント、分析の手法と視点、事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等）、情報の共有について学ぶ。</p> <p>③感染対策の必要性を理解し、「感染」に対する正しい知識を学ぶ。</p> <p>【演習】事件事例を元に、発生原因・改善方法等についてグループごとに話し合い、まとめたものを発表する。</p>
(4)介護職の安全		1.5 時間	<p>【講義】介護職自身の健康管理（介護職の健康管理が介護の質に影響、ストレスマネジメント、腰痛予防に関する知識、手洗い・嗽の励行、手洗いの基本、感染症対策）について学ぶ。</p>
合計時間数		6 時間	

科目名（時間）	4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）		
到達目標	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として、最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)介護保険制度		3時間	<p>【講義】①介護保険制度創設の背景及び目的、動向（ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換、地域包括支援センターの設置、地域包括支援システムの推進）を理解する。</p> <p>②介護保険の基礎的理解（保険制度としての基本的仕組み、介護給付と種類、介護予防、要介護認定の手順）を学ぶ。</p> <p>③制度を支える財源、組織・団体の機能と役割（財政負担、指定介護サービス事業所の指定）を学ぶ。</p> <p>【演習】例題をもとに、釜石市の社会資源を中心に種類と活用法についてグループに分かれて検討し理解を深める。</p>
(2)医療との連携とリハビリテーション		3時間	<p>【講義】医行為と介護、訪問看護、施設における看護と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念を学ぶ。</p>
(3)障害者自立支援制度およびその他の制度		3時間	<p>【講義】①障害者福祉制度の理念について学ぶ。障害の理念、ICFを理解する。</p> <p>②障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解（介護給付・訓練等給付の申請から支援決定まで）をする。</p> <p>③個人の権利を守る制度の概要（個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業）を学ぶ。</p>
合計時間数		9時間	

科目名（時間）	5. 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）		
到達目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)介護におけるコミュニケーション		3時間	<p>【講義】①介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割（相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴、共感の応答）を学ぶ。</p> <p>②コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーションを学ぶ。</p> <p>③利用者・家族とのコミュニケーションの実際（利用者の思いを把握する、意欲低下の要因を考える、利用者の感情に共感する、家族の心理的理解、家族へのいたわりと励まし、信頼関係の形成、自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い）を学ぶ。</p> <p>④利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際（視力、聴力、失語症、構音障害、認知症の各状態に応じたコミュニケーション技術）を学ぶ。</p> <p>【演習】グループワークを通じて「共感、受容、傾聴的態度」などの介護におけるコミュニケーションの基本的ポイントの理解を深め、まとめたものを発表する。</p>
(2)介護におけるチームのコミュニケーション		3時間	<p>【講義】①記録における情報の共有化（介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、介護に関する記録の種類、個別援助計画書、ヒヤリハット報告書、5W1H）ができるようにする。</p> <p>②報告、連絡、相談の留意点を学ぶ。</p> <p>③コミュニケーションを促す環境（会議、情報共有の場、役割の認識の場）を学び具体的な進め方について学ぶ。</p>
合計時間数		6時間	

科目名（時間）	6. 老化の理解（6時間）		
到達目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解する事の重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常		3時間	<p>【講義】老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴（防衛反応の変化、喪失体験）を学ぶ。</p> <p>②老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響（身体的機能の変化と日常生活への影響、咀嚼機能の低下、筋・骨・関節の変化、体温維持機能の変化、精神的機能の変化と日常生活への影響）を学ぶ。</p> <p>【演習】加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について学んだ後、事例検討を行い理解を深める。</p>
(2)高齢者と健康		3時間	<p>【講義】①高齢者の疾病と生活上の留意点（骨折、筋力低下と動き・姿勢の変化、関節痛）を学ぶ。</p> <p>②高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点（循環器障害、誤嚥性肺炎、疾病の小さな変化に気づく視点、高齢者は感染症にかかりやすい）を理解する。</p> <p>【演習】高齢者と若者の健康の違いについて現状の認識をグループで話し合い、講義を受けた後に再度グループで話し合うことにより気づき深めることができるようにする。</p>
合計時間数		6時間	

科目名（時間）	7. 認知症の理解（6時間）		
到達目標	介護において認知症を理解する事の必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解する。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)認知症を取り巻く状況		1.5時間	【講義】認知症ケアの理念（パーソンセンタードケア、認知症ケアの視点（できることに注目する））を学ぶ。
(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		1.5時間	【講義】認知症の概念、認知症の原因疾患とその病歴、原因疾患別ケアのポイント、健康管理について学ぶ。
(3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活		1.5時間	【講義】①認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴（認知症の中核症状、認知症の行動・心理状態（BPSD）、適切なケア、生活環境で改善）を学ぶ。 ②認知症の利用者への対応（本人の気持ちを理解する、プライドを傷つけない、相手の世界に合わせる、失敗しないような状況をつくる、すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、身体を通じたコミュニケーション、相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する。認知症の進行に合わせたケア）を理解する。 【演習】BPSDへの対応、コミュニケーションのとり方等を、グループで検討し発表する。
(4)家族への支援		1.5時間	【講義】認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減（レスパイトケア）を学ぶ。
合計時間数		6時間	

科目名（時間）	8. 障害の理解（3時間）		
到達目標	障害の概念と ICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解できる。		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)障害の基礎的理解		1時間	<p>【講義】①障害の理念と ICF（ICF の分類と医学的分類、ICF の考え方）理解する。</p> <p>②障害者福祉の基本理念（ノーマライゼーションの概念）を学ぶ。</p>
(2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		1時間	<p>【講義】①身体障害（視覚障害、聴覚、平衡障害、音声・言語・咀嚼障害、肢体不自由、内部障害）について学ぶ。</p> <p>②知的障害について理解する。</p> <p>③精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む）（統合失調症・気分・依存症などの精神疾患、高次脳機能障害、広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害）について学ぶ。</p> <p>④その他の心身の機能障害を学ぶ。</p> <p>【演習】障害疑似体験セットを用いて、視覚障害、聴覚障害、運動機能障害の理解を深める。</p>
(3)家族の心理・かかわり支援の理解		1時間	<p>【講義】家族の支援（障害の理解・障害の受容支援、介護負担の軽減）について学ぶ。</p>
合計時間数		3時間	

科目名（時間）	9. こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)介護の基本的な考え方		2時間	<p>【講義】倫理に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）、法的根拠に基づく介護とは何かを学ぶ。</p>
(2)介護に関するこころの仕組みの基礎的理解		4時間	<p>【講義】学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、心の持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響について学ぶ。</p> <p>【演習】要介護者の心の持ち方が行動に与える影響について、グループで検討しまとめる。</p>
(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解		6時間	<p>【講義】人体の各部の名称と働きに関する基礎知識、骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、こころとからだを一体的に捉える、利用者の様子の普段との違いに気づく視点を学ぶ。</p>
(4)生活と家事		6時間	<p>【講義】家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援（生活歴、自立支援、予防的な対応、主体的・能動性を引き出す、多様な生活習慣、価値観）について学ぶ。</p> <p>【演習】事例を通じてグループごとに生活援助のシミュレーションを行なう。シーツ交換の方法について実技を行なう。</p>
(5)快適な住居環境と介護		3時間	<p>【講義】快適な住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法（家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与）について学ぶ。</p> <p>【演習】要介護者の生活環境や障害によってどのような福祉用具や環境整備が必要か、グループで事例検討し、有効性を学ぶ。</p>
(6)整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		6時間	<p>【講義】整容に関する基礎知識、整容の支援技術（身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身支度、整容行動、洗面の意義・効果）を学ぶ。</p> <p>【演習】衣類着脱、口腔ケア等の整容支援の実技を通じ、介助のポイントを学ぶとともに、要介助者の体験をすることにより介助を受ける側の気持ちを理解する。</p>

<p>(7)移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>		<p>12 時間</p>	<p>【講義】移動・移乗に関連する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害する心と体の要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援（利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、利用者の事前な動きの活用、残存機能の活用・自律支援、重心・重力の動きの理解、ボディメカニクスの基本原則、移乗介助の具体的な方法、移乗介助、褥瘡予防）について学ぶ。</p> <p>【演習】体位交換、移乗介助の実技を通じ、ボディメカニクスの基本原則と留意点を学ぶ。福祉用具を用いて、利用者・介護者にとって負担の少ない移動動作の支援方法を学ぶ。</p>
<p>(8)食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>		<p>6 時間</p>	<p>【講義】食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援（食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意義、低栄養の弊害、脱水の弊害、食事と姿勢、咀嚼・嚥下のメカニズム、空腹感、満腹感、好み、食事の環境整備（時間・場所等）、食事に関連した福祉用具の活用と介助方法、口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎の予防）について学ぶ。</p> <p>【演習】①嚥下状態の悪い方、脱水傾向の方に対する調理の工夫についてグループワークを行なう。②ムセのある方に対する介助の仕方や工夫に、姿勢について実技を行なう。③口腔体操。</p>
<p>(9)入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>		<p>6 時間</p>	<p>【講義】入浴、清潔保持に関連した基礎知識、様々な入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法（羞恥心や遠慮への配慮、体調の確認、全身清拭（身体状況の確認、室内環境の整備、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方、目、鼻腔、耳、爪の清潔保持、陰部洗浄、足浴、手浴、洗髪）について学ぶ。</p> <p>【演習】①入浴介助に関する一連の流れに沿った実技。②清拭及びベッド上での洗髪方法の実技。</p>
<p>(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>		<p>6 時間</p>	<p>【講義】排泄に関する基礎知識、様々な排泄環境と排泄用具の活用方法、快適な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法（排泄とは、身体面（生理面）での意味、心理面での意味、社会的な意味、プライド・羞恥心、プライバシーの保護、オムツは最後の手段／オムツ使用の弊害、排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的な方法、便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ）について学ぶ。</p> <p>【演習】①おむつの当て方の実技。②排泄時の座位姿勢を実際に行なうことで排泄メカニズムを学ぶ。③おむつに頼らないための支援方法について、グループで話し合い発表する。</p>

(11)睡眠に関連した ところとからだ のしくみと自立 に向けた介護		3時間	<p>【講義】睡眠に関する基礎知識、様々な睡眠環境と用具の活用方法・快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法・安眠のための介護の工夫、環境の整備（温度、湿度、光、音、よく眠るための寝室）、安楽な姿勢、褥瘡予防について学ぶ。</p> <p>【演習】安眠を促すための介護の工夫として、①臥床時のポジショニングと用具の工夫、②ベッドマットの種類と体験等を行なう。</p>
(12)死にゆく人に関 連したところと からだのしくみ と終末期介護		3時間	<p>【講義】終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援（終末期ケアとは、高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死、癌死）、臨終が近づいた時の兆候と介護、介護従事者の基本的態度、他職種間の情報共有の必要性）について学ぶ。</p> <p>【演習】終末期を迎えた高齢者の事例をもとに、その生をどのように支援していくことが望ましいのか、グループに分かれて話し合い、結果を模造紙に清書して発表する。</p>
(13)介護課程の基礎 的理解		3時間	<p>【講義】介護課程の目的・意義・展開、介護課程とチームアプローチについて理解をする。</p> <p>【演習】事例をもとに個人ごとにアセスメントを実施し、目標、支援内容等をグループごとに話し合い発表する。模擬結果での評価まで行う。</p>
(14)総合生活支援技 術演習		9時間	<p>【演習】生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。</p> <p>・事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（このサイクルを実施する）</p>
合計時間数		75時間	

科目名（時間）	10. 振り返り（4時間）		
到達目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだ事について再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1)振り返り		3時間	<p>【講義】研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点をまとめ、身だしなみ、言葉使い、対応の態度の礼節に関する理解を深める。</p> <p>【演習】研修全体の振り返りを行い、社会から求められる介護職とこれから自分たちが目指す介護職としての姿をイメージできるようグループで話し合う。</p>
(2)就業への備えと研修終了後における継続的な研修		1時間	<p>【講義】継続的に学ぶべきこと、研修終了後における継続的な研修について具体的にイメージできるような事業所等における実例（Off-JT、OJT）を紹介する。</p>
合計時間数		4時間	